

## スライド資料の要旨

### P1 札幌市民の感染者数・入院患者数・重症患者数の推移

- ・現在は、デルタ株の広がりによる感染第5波の真っただ中にある。
- ・今春の第4波では、入院患者数は最大480人、重症者数も37人に達し、助かる命も助からないという事態の手前までいった。
- ・第4波に比べると現状は入院患者数と、特に重症患者数が低い水準で推移しているが、ワクチン接種が進んでいる高齢者の入院、重症化が激減したことが要因だと思われる。
- ・ワクチン接種が進んでいる影響で、施設や病院でのクラスター発生件数も大きく減少し、感染の広がりも小規模になっている。

### P2 市内年齢別感染者数の割合

- ・第3波の市内感染者の最大5割を占めていた高齢者（60代以上）が、ワクチン接種が進んだ現状では1割以下まで減少している
- ・コロナ流行当初は、「高齢者がかかる病気」、「風邪みたいなもの」と言われていたが、変異を経て、「年代に関係なく感染し、重症化するリスクがある伝染病」という、もはや別の病気に変貌している。

### P3 コロナに感染するということは…

- ・感染力の強いデルタ株の広がりにより、家庭内など親密な間柄での感染が増えている。
- ・コロナに感染するということは、自分と同居している家族や、親しい友人、恋人も感染する可能性が非常に高い。
- ・同居している両親が40代、50代、祖父母が70代であれば、両親世代の4人に1人が、祖父母世代の3人に1人が入院や酸素投与が必要な状態になっているという認識を持ってほしい。
- ・重症になってしまうと、入院期間が数か月に及ぶ場合や、死亡に至る例もある。
- ・若い世代は、いわゆる「軽症」で済む場合も多いが、コロナの重症度は呼吸器症状により判定する。
- ・例えば、40度の熱が続いても、呼吸器症状がなければ「軽症」と判断され、入院は難しい可能性がある。また、後遺症が残る方もいる。
- ・デルタ株の感染力は大変強いので、図のような感染の拡大を防ぐためには、自分自身だけでなく身近な人も、できるだけワクチンを接種することが非常に有効である。

### P6 ①ウイルスと細菌は違います。

- ・ウイルスは細菌よりも小さく、目には見えない。
- ・ウイルスは細胞に寄生しないと生きることができない（細胞の外では生きられない）。

→感染の一番の原因は飛沫

- ・基本的にウイルスに効く抗生物質はない。新型コロナウイルスの治療薬もまだ存在しない。

#### **P7 新型コロナの感染経路は、主に飛沫によるもの**

- ・大きな飛沫は1~2メートルで落ちるが、小さな飛沫（エアロゾル）はなかなか落ちずに空気中に漂う。

→会話でも飛沫が飛ぶため、換気・送風をしっかり行い、マスクをしっかりすることが重要。

#### **P8 飛沫に対する効果**

- ・ファッション性を重視して、ウレタンマスクをしている若い方が多く見受けられるが、飛沫防止効果が低いため、できれば着用は控えてほしい。
- ・不織布マスクの防止効果が一番高いと言われている。
- ・フェイスシールドはエアロゾルをそのまま通すためほとんど効果がない。フェイスシールドを付けるのであれば、その下にマスクをつけてほしい。

#### **P9 ② 新型コロナウイルスワクチンって？**

- ・新型コロナウイルスのワクチンは、ファイザー製とモデルナ製のは mRNA(メッセンジャーRNA)ワクチン、アストラゼネカ製はベクターワクチン。  
→インフルエンザワクチン等とは種類が違う新しいタイプのワクチン。
- ・コロナウイルスが細胞に入り込むために必要なタンパクに蓋をする(=感染しない)というのが mRNA ワクチンである。
- ・ポリオやインフルエンザなど従来のワクチンはタンパク質を増やす工程が必要なので時間がかかる。
- ・mRNA ワクチンは今回発明されたように思えるが、何年も前から研究されていたものである。

#### **P10 ③-1 「発症」をどれだけ防止するの**

- ・今回のワクチンの効果は非常に高い。
- ・インフルエンザワクチンの効果は6割といわれているが、新型コロナワクチンは発症予防効果が9割以上ある。
- ・変異株流行の影響で、ワクチンを打っても感染してしまう「ブレイクスルー感染」が出てきているが、重症化の人数は少ない。
- ・新型コロナワクチンは筋肉注射。筋肉注射は痛くない。

### P11 ③-2 有効性 90%とは

- ・「有効性 90%」とは、接種者と未接種者のコロナ陽性者数を比べたときに、ワクチンを接種していれば感染を防げたであろうという数字。
- ・スライドの図で言うと、未接種者は300人感染したが、接種者は30人しか感染しなかった場合、有効率は90%となる。
- ・90%の人がワクチンを接種していればコロナに感染しなかった、という意味合い。

### P12 ③-3 mRNA ワクチンには、感染予防、発症予防、重症化予防の3つの働きがある。

- ・イスラエルの研究では感染を予防する効果、発症を予防する効果、重症化を予防する効果があるという研究結果が出ている。
- ・全年齢を通じて、死亡率の減少率が96%。重症化しにくくなるというのが大事。

### P13 ワクチン接種別市内検査状況

- ・札幌市内のワクチン接種別コロナ検査状況
- ・ワクチンを接種していない人に比べて、ワクチンを接種した人のコロナ陽性率は劇的に減っている。
- ・1回接種すると約1/4、2回接種すると1/10以下に陽性率が下がる。

### P14 年代別中等症以上割合の推移

- ・札幌市内の年代別中等症以上割合の推移
- ・変異株の流行によりワクチンを接種していない若い世代に重症者が出始めた。
- ・ワクチン接種が進んでいる高齢者は重症化リスクが下がってきているが、接種の順番待ちをしている40代50代の重症化リスクが上がっている。

### P15 ワクチン接種別の重症度比較

- ・札幌市内のワクチン接種別の重症度比較（R3.4.1～）
- ・コロナ感染者のうちワクチンを1回以上接種した人で重症事例はない。中等症者も少ない。

### P16 ④ 代表的な副反応とその対策

- ・モデルナ製ワクチンの年代別副反応データ
- ・1回目の副反応で顕著なのが疼痛。肩の痛み・熱っぽさ、五十肩のような症状が出る。熱を持った場合、冷却ジェルシートを貼ることをおすすめしている。  
→利き手ではない方の肩に打った方がよい。
- ・発熱は若い人ほど症状がみられる傾向にある。
- ・副反応の度合いとワクチンの効き目は全く関係がない。

- ・2回目は若い人の8割以上に発熱症状が出る。この情報は事前に学生に周知して症状が出たときにしっかり対処できるようにしてほしい。
- ・副反応は1日～1週間以内に症状が治まる。
- ・発熱は大抵3日程度でなくなるため、接種して4日目以降発熱が続く場合は、コロナ感染による発熱を疑って、医療機関の受診や検査を勧めてほしい。
- ・副反応の情報を事前に学生に伝えることが重要。学内に相談窓口を設けるなどの対策も有効。

#### **P17 ④-2 アナフィラキシーについて①**

- ・ファイザー、モデルナのいずれもアナフィラキシーが発症する頻度は100万接種あたり5件未満である。
- ・アナフィラキシーショックの対応方法・治療法は確立されており、接種会場での準備もされているため、アナフィラキシーショックで亡くなるということは考えづらい。
- ・注射を打つことで血圧が下がって気を失う「血管迷走神経反射」という症状を起こす人が稀にいる。会場の医師・看護師の対応が必要。

#### **P18 ④-2 アナフィラキシーについて②**

- ・日本国内のファイザー製ワクチン接種において、100万接種あたり13件のアナフィラキシーが報告されている。
- ・アナフィラキシーでの死亡事例はない。

#### **P19 ④-2 アナフィラキシーについて③**

- ・mRNAワクチンにはポリエチレングリコールが含まれている。
- ・保湿剤や入浴剤、洗剤にもポリエチレングリコールは含まれているものがあるため、過去にそれらでアレルギー反応があった方は予診票に記入すること。
- ・食べ物、ペット、ハウスダストなどのアレルギーがある方は接種後30分、接種会場で待機が必要。
- ・モデルナ製ワクチンの場合、接種から約1週間経過後に腕が腫れる「モデルナアーム」と言われる副反応が出ることがある。
  - 自然に治癒するが気になる場合は冷却ジェルシートを貼って対処。
- ・万一アナフィラキシーが起こっても、確立された治療法があり、接種会場にはすぐに処置できるよう準備されているため安心してほしい。

#### **P20 ④-3 代表的な副反応とその対策**

- ・接種後、痛みや発熱があった場合、アセトアミノフェンが入った解熱鎮痛剤ではないといけないという報道を耳にするが、そのようなことはなく飲み慣れたもので大丈夫。
- ・ワクチンの効果を減弱させる可能性があるため、予防的に解熱鎮痛剤を予防的に服用することは控えてほしい。  
→症状が出てから服用してほしい。
- ・4日以上発熱や味覚・嗅覚障害がある場合はコロナ感染を疑って、医療機関の受診や検査を行ってほしい。

#### **P21 ⑤代表的な質問 (1 ワクチンの効果はどれくらい続くの?①)**

- ・モデルナ製ワクチンは接種後3か月から抗体価が下がり始める。
- ・ファイザー製ワクチンの抗体価が3か月後に激減したという報告が藤田医科大学からなされた。
- ・「抗体価が下がる＝ワクチンの効果がなくなる」ではない。

#### **P21 ⑤代表的な質問 (1 ワクチンの効果はどれくらい続くの?②)**

- ・ワクチンの効果は抗体産生だけではなく、細胞性免疫も得られる。
- ・獲得免疫の働き  
→ヘルパーT細胞がキラーT細胞に対し、ウイルスに感染した細胞を攻撃する指令を出す。  
→「ウイルスに感染しない」「重症化しない」という効果がある。

#### **P22 ⑤代表的な質問 (2 ワクチン接種のリスクと感染した時のリスクは結局どうなの?)**

- ・ほとんどの疾患でコロナ感染のほうがワクチン接種より発症リスクが高い。

#### **P23 ⑤代表的な質問 (3 既に感染したので接種の必要がないんじゃないの?)**

- ・新型コロナウイルスに感染してもワクチン接種は可能。むしろ接種が推奨されている。  
→再感染の可能性があるため  
→自然に感染するよりワクチン接種の方が血中の抗体の値が高くなるため
- ・コロナに感染したことがあっても、最低1回はワクチンを接種してほしい。

#### **P24 ⑤代表的な質問 (4 ワクチンを接種したら今後の感染対策は不要になるのか?)**

- ・ワクチンを接種しても感染してしまう人はいるため、継続して感染予防対策は必要。
- ・心筋炎等のリスクを下げるために、ワクチン接種後1週間はクラブ活動などの激しい運動は控えてほしい。